



晴天の心

立教 185 年 5 月号
 大阪府 富田 林市 寿町 4-9-10
 URL: www.tomiishi.net
 TEL: 0721-23-3466 090-5243-4669



先月、4月の月報を発送した頃から風邪気味で喉が痛く痰が多く出ていたのですが、29日の教区支部の各会議をなんとかこなしてダウン。30日から寝込んでしまい、週末に一時的に回復したものの、翌週もぶり返したので病院へ行くと風邪から来る腸炎と診断。点滴と薬を処方されてまたこの週もダウン。3週間目にしてようやく社会復帰するも、ふらふら。ようやく17日の月次祭で完全回復。久しぶりに点滴を受けたり寝ることしかできない日を過ごしました。今月は手厳しいお手入れだったなど、思っていたら、23日の朝。半飼猫のジュニアを病院へ連れて行った際に噛まれて、再び病院へ。今度は外科。消毒は動物病院でもしていたのですが、薬のこともあるので必ず診察を受けてくださいと、言われての受診。左手人差し指がかなりひどいことになっていて、治療と薬を処方してもらって、翌日は日曜日でしたので仕事をこなすも、明らかに腫れている。月曜日に見てもらおうと、膿んでいるから膿を押し出して（これが痛い）消毒してしばらく続けることに。この原稿を入力時もまだ通院しています。

風邪の時も感じたのですが、やっぱり、身体はかりているもので心だけが自分のもの。

咳よとまれ、腸炎よ回復せよといくら脳で考えても、これが治らない。

自分のものであれば、回復する方法を知っていて回復できるはず。

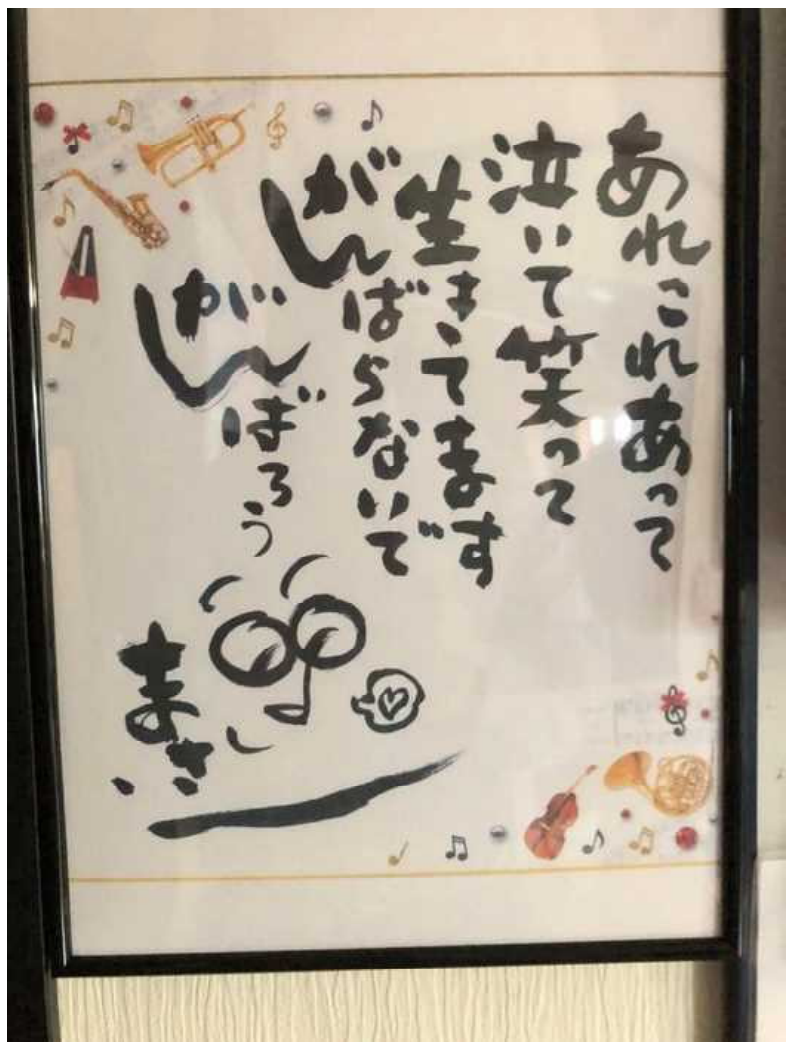
でも頭で考えることとは、心の持ちようを考えることもできるわけで、心だけは自分のもの。自由に使える。そんなことを改めて寝床で心に収めていての、左手のけが。

立て続けてのお手入れに、思案不足を痛感しました。

この期間中、毎夕おつとめ後に、真理恵におさづけを取り次いでもらったのですが、暖かい気を受け取らせていただいて早く回復できたと思います。取り次いでいる真理恵に聞くと、例えば左手のけがの場合は、最初は左手全体が黄色く見えて、噛まれた根本の場所は黒く見える。この場所に意識を集中しておさづけをするようにした。昨夜の時点で、黄色い部分は人差し指だけとなり、運んでいるであろう噛まれたところが黒い点で見えた。

この能力は、本当にありがたい。その日の朝の治療時の状態そのものだったのですから。かしまのかりものについては、Webサイトからの引用で改めて詳しく説明します。

月次祭 5月19日（木）午前10時～
 婦人会例会 5月9日（月）午前10時～



身体は誰のもの？

私は生まれてから今日まで、心臓に動けと命じたことは一度も無く、身体に手を入れて動かしたこともありません。

けれども、目に見えぬところで、一分一秒休むことなく動き続けていることに感心すると同時に、これは人間の知恵や力で成せる業ではなく、神様のお働きであり、つくづくありがたいことなのだと感じ入りました。

よくよく考えてみると、心臓から送り出された血液は、血管を通じて全身にエネルギー（栄養）として行きわたり、それを動力源として活動できているのです。

そして、私たちの体温（ぬくみ）を保つことができるのは親神様（おやがみさま）の「をまたりのみこと」のお働きによるものなのです。

このことで、身体は自分のものではなく神様からお与えくださっているものだと心から実感しました。

にんけんハみなノ、神のかしものや

神のらうよふこれをしらんか

「おふでさき」 3号 126

“ありがとう”感謝の言葉を何回言っている？

私たちは食事を頂くとき、動物や植物の命を頂いていることから、その恵みに対して「いただきます」あるいは「ごちそうさま」といった感謝の言葉を口にしています。

食べ物を体内で消化、吸収し、排泄するのは（飲み食い出入り）、「くもよみのみこと」のお働きなのです。

私は入院中の経験から、食事を口にする際はもちろんですが、用を足すときにも、その都度、心の中でお礼を申し上げるようになりました。

それによって、これまでは当たり前のように考えていた身の内のお働きに対して、意識して通らせていただくことができ、また、以前より毎日を心明るく過ごすことができるようになったと思います。

そして、「ありがとう」、「ありがとうございます」といった感謝の言葉を口にしたり、心に思ったりすることが増えれば増えるほど幸せであり、そう言える相手が多くいて、支えてくださっているからこそ、日々を安心して暮らすことができるのだと最近では考えるようになりました。

なぜ病気になるの？

ところで、私たち人間に「陽気ぐらし」をさせてやりたい、幸せにしてやりたいとお考えになっておられるはずの親神様は、なぜ私たちにつらく、時には苦しい病気をお見せくださるのでしょうか。

かわいい子どもにつらい思いをさせたい親は誰もいないと思うのですが。

親神様はそのことについて次のように仰せくださっています。

人間というものは、身ばかりもの、心一つが我がのもの。たった一つの心より、どんな理も日々出る

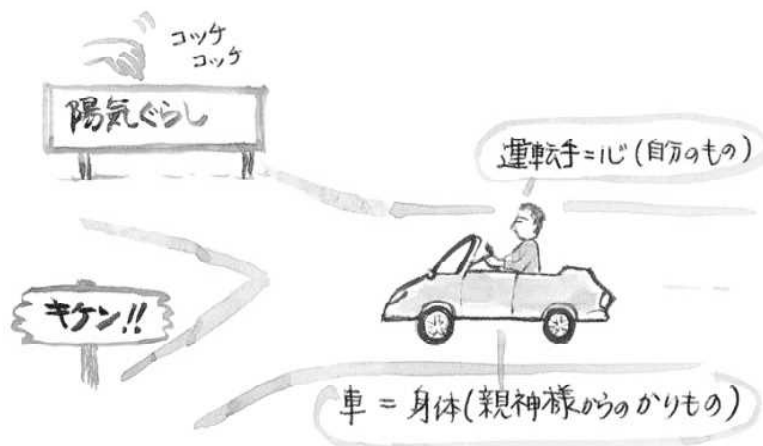
「おさしづ」 明治22年2月14日

私たちの身体は神様からみれば人間に貸しているもので、人間からみれば神様から借りているものですが、それぞれの心は自分のもので、自分自身の思うように使うことができるということです。

ただし、心の使い方によって、昨日の行動の結果が今日現れてくるように、自分にとって都合の良いことも悪いことも心通りに現れてくると仰せくだされているのです。

心と身体の関係をつかりやすく例えれば、次の図のように考えられるのではないのでしょうか。

お互いの日々の心の使い方が親神様の思召に沿っていて、親神様の大きなご守護にお礼させていただくとともに、人様にも喜んでもらいたい、幸せになってもらいたいとの心で通らせていただければ、前方も広がって、道も間違ふことなく、おのずと神様のご守護を頂いて、陽気に暮らさせていただけます。



逆に自分さえ良ければ人はどうなっても良いなどと思召に沿わぬ心使いを重ねていると、だんだん心が曇って前が見えなくなり、神様から見て“危ない”という状況のときには、身体に病気というサインを付けて、そこに込められたメッセージをもって私たちに進路の修正を促されるのです。

私の場合、心臓の管が詰まったのは、思い詰めた心の悩みが原因であったと思います。心の中で人を冷たく追い詰めたことで、ぬくみのお働きをいただく所が詰まってしまったのだと気付かせていただくことができました。

私たちは毎日、神様から陽気ぐらしをするためのメッセージをたくさん頂戴しています。あなたは今日、何を受け取りましたか？

※『Happist』2011年1月号掲載

こうして、病気やけがをすることで、普段何気なく行っていたことや出来たことが、出来なくなることで、いろいろ気づかせてもらえます。

病院の待合室や仕事先、車の運転や日常生活の中でも。

お手入れは、実は神様が見守って守ってくださっている証。

そして、本人のおたすけを通して、それに関わる人も助けてくださるのだと思います。

前裁剪定

4月22日支部青年会から剪定ひのきしんに来てくださり、すっきりしてくださりました。高いところは苦手ですので本当に助かります。

途中、真理恵も参加して、いろいろ教わったようです。

左が剪定前、右が剪定後です。

これは駐車場からの写真ですが、北側も綺麗にさせていただきました。

ありがとうございました。



自転車置き場からみた
剪定前と剪定後



自転車置き場横
もじゃもじゃがすつき
りました

陰暦 26日と陽暦 26日

本部月次祭は現在陽暦を基準として祭典が行われています。立教の頃は、江戸時代ですから陰暦です。陰暦は月の満ち欠けを元に作られた暦です。今年2月26日の少し前にSNSで、今年の陰暦正月26日は2月26日と重なり非常に珍しい日です。といった内容のものでした。陰暦26日のお月様の形をご存じの方は意外と少ないです。なぜなら月の出が午前3時頃、お昼過ぎには沈んでいきます。日の出までのわずかな時間だけ見ることが出来るのですが、日中も実は空にあります。お日様が明るくて見えづらいだけなのです。陰暦26日が重要なのは、太陽暦の26日と重なった場合、本部月次祭の祭典が行われている時間は、お日様とお月様とが、空から見守ってくださっている日柄となるから、とてもありがたい日なのです。実は、古い教会の扇や器に、月日が描かれることがあったのですが、そのときの月の形のほとんどは月齢26日の月です。ちなみに、お盆は15日ですが、なぜか解りますか？ 陰暦15日は満月。昔はかがり火の明るさが最大の明かり、となればもっと明るい満月の明かりの下で、盆踊りなどの行事を行っていたのでしょ。今のように、夜でも昼のように明るいのは違ったということですね。陰暦26日の月は、見えないけれど、見守ってくださっている証拠だったとおもいます。ちなみに今年は4月26日、5月26日も陰暦26日に当たります。そういうことを思いながら本部祭典を参拝するとまた違ってくるのではないのでしょうか。



右：月齢26日の月
左：月齢3日の月



月日の扇・・明治20年頃、○原町大教会でおつとめにつかわれたもの。